

第100卷

昭和25年2月10日第3種郵便物認可 平成29年4月1日発行（毎月1回1日発行） 第100巻第4号 ISSN 1341-6669

月刊福祉

4
APRIL

Monthly
Welfare
2017

特集

災害に備える、地域ネットワークづくり



おいしい!の笑顔を 働くチカラに

■ 大阪府：社会福祉法人北摂杉の子会
LaLa-chocolat TAKATSUKI

グラフ21

撮影 = 藤田政明
取材・文 = 編集部





【LaLa-chocolat by 久遠】の商品は、久遠チョコレートシェフシヨクラティエ野口和男氏の監修



グラフ21

大阪府高槻市を拠点とする社会福祉法人北摂杉の子会は、「地域に生きる」を理念として、障害のある人が安心して暮らせる社会づくりをめざしている。障害のある人の働きがいと工賃向上を目的として、チョコレートと焼き菓子の店をオープン。福祉事業に高い付加価値を生み出し、障害のある人のQOLの向上に取り組んでいる。



社会福祉法人北摂杉の子会は、それまでに培ってきた焼き菓子の製造販売の実績をもとに、就労継続支援B型事業を展開し、2015（平成27）年10月にチョコレートと焼き菓子の店「LaLa-chocolat by 久遠」を開店した。高槻市駅前にあるおしゃれな店内には、高級なチョコレート菓子が美しく並び、一般の洋菓子店に勝るとも劣らない店構えとなっている。福祉の店としては珍しい、高価格の商品を扱う事業展開について、生産活動支援部部長の木戸貴之さんはこう語る。

「デイーセント・ワークをキーワードに、障害のある人の働きがいのある仕事づくりの取り組みとしてスタートしました。プロの製菓指導を受けた高い技術で、良質な材料を使って商品をつくっています。それに見合った価格で販売することで収益性を上げ、利用者に高い工賃を還元することをめざします」

利用者の働きがいや技術を高める工夫としては、食材のカットや飾りつけ、焼き菓子の生地づくり、温度管理の難しいチョコレートを扱う仕事など、作業の難易度に合わせて賃金を上乗せする仕組みを取り入れている。自分の特性を活かしながら、努力次第で少しずつ工賃が上がるため、利用者の自己肯定感や達成感につながっているという。また、菓子の袋詰めやラッピングなど、店舗外における作業も多岐にわたるため、人と関わるのが苦手な利用者も安心して仕事を続けられる。

「お客様には、高品質な商品を提供する専門店としてご愛顧いただいています。商品の質を認めていただくことが利用者さんの誇りとなり、仕事のモチベーションにもつながっています」と、木戸さんは語る。

店の売り上げは順調に推移し、オープンから1年に満たない12月末時点で、すでに今年度の目標を達成しているという。目標とする工賃平均5万円をめざして、利用者と職員が一歩ずつ実績を積みあげている。

一般市場で通用する質の高いものづくりは、障害のある人の仕事の価値を見直し、福祉事業が地域に溶け込むきっかけにもなっていく。障害のある人の仕事に新たな可能性を見いだした、同法人の取り組みにこれからも期待したい。



厨房は焼き菓子のエリアと低温を維持するチョコレートを扱うエリアに分かれる。ここは、製菓用オーブンを備えた焼き菓子の厨房エリア



上は、かつての菓子工房時代からのファンも多い定番商品「はっぴいぶれいすBeガレット」。当時からパティシエを務める職員がチョコレートの技術を学び、利用者に作り方を指導している。パティシエの白いコックコートを着る日をめざして、利用者は仕事にはげむ

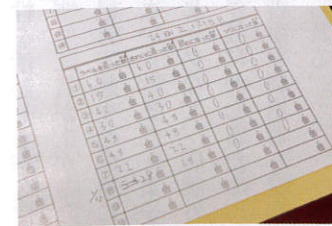


オレンジを網に並べ、チョコレートをかける準備。こうした製菓作業を含め、清掃、食器拭き、ラベル貼り、ゴミ出しなど、一人ひとりがその日に行う仕事をスケジュール表で視覚化。仕事の内容を確認しながらすすめることで、作業の順序を間違えずに効率よく行える



法人事務所では、立ち仕事や集団作業が困難な利用者のために、箱の組み立てやシール貼り、袋詰め作業などが用意されている。落ち着いて作業に取り組めるよう、作業机に仕切りを設ける工夫も

チョコレートを飾りつけるナッツやドライフルーツを細かくカットする利用者。この後のラベル貼りの仕事では、作業の出来、不出来を表で自己管理するなど、スキルアップの努力を行っていた





対面エリアでは、職員の指導で課題学習を行いながら、人とのコミュニケーションや社会性等の力を養う



「こども発達支援センターwill」では、小学校3年生までの子どもと親を対象として、個別療育を行っている。センターを訪れた子どもは、まずスケジュールボードでその日の活動内容を確認し、目的のエリアに向かう。限られた時間内にさまざまなプログラムに取り組み、行動管理や身辺面の自立にもつなげていく



遊びを通じた学習の時間。友達と遊びたい時の声のかけ方など、自分の要求や感情を相手に伝える方法を学ぶ。保護者にとっては、子どもへの接し方を学ぶ場であり、親同士で情報交換をする場にもなっている



プログラムの最後に、その日のプログラムの振り返りをする。思い出しやすいよう、学習内容を絵で示し、学んだことを○で囲んで確認する



自立エリアではひとりで課題を行う。まずは整った環境で学習して成功体験を重ね、問題解決する力を養う。この日は、あえて答えがすぐに出ない課題に取り組むことで、困った時に助けを求める練習をしていた



同法人の高槻地域生活総合支援センター「ぶれいすBe」では、生活介護と就労継続支援B型事業を中心に運営。施設の一部を地域に開放した「カフェBe」では、就労の前段階の取り組みとして、職員の指導のもと利用者が接客を行っている



就労継続支援B型事業のひとつ、業務用リネンのクリーニング作業



重複障害のある人たちの生活介護。この日の音楽療法では、利用者の多くが楽しそうな笑顔を見せてくれた